

熊本市メディカルコントロール協議会 救急技術指導会について(案)

現状と課題

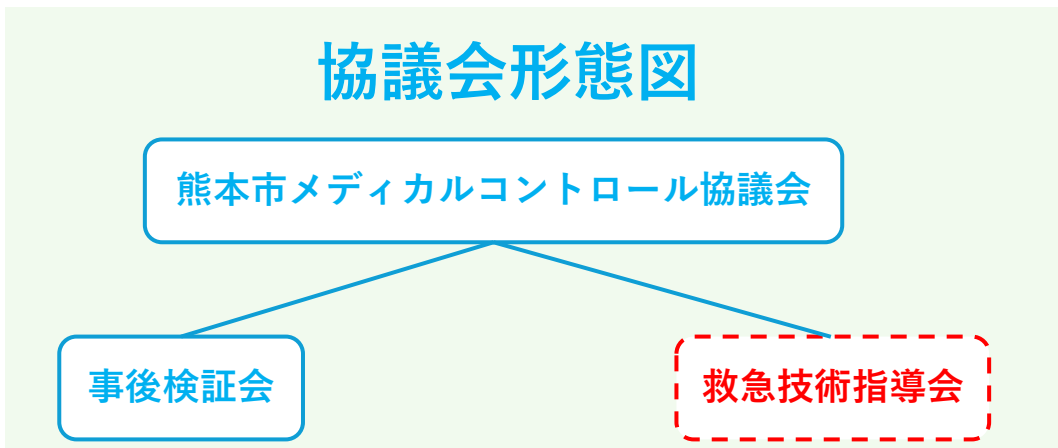
現状として、救急活動に関するプロトコルの共有や事後検証会は局全体で実施されているものの、救急現場を想定したシミュレーション訓練は各署が自発的に行っている状況にとどまり、定期的かつ体系的な訓練体制が未整備となっている。

また、救急隊の活動には医学的知見に基づく医師の助言が不可欠である一方、各署が独自に実施しているシミュレーション訓練では医師を招聘する機会が少なく、訓練中に生じた医学的疑問をその場で解消できないという課題がある。

訓練目的

救急件数の増加に伴い、救急隊の迅速かつ適切な対応がこれまで以上に求められている状況を踏まえ、局内の救急活動手順の統一及び隊員相互の連携体制を強化し、救急現場における対応力の向上を目的とする。

協議会形態図



スケジュール

R7年10月～11月

R8年3月

R8年4月～8月

R8年9月

高度救命処置訓練
人形購入熊本市MC
協議会にて審議各署訓練実施・選抜期間
訓練想定表作成

救急技術指導会

タイムテーブル									
時間	9:00～9:10	1回目 9:15～9:30	2回目 9:40～9:55	3回目 10:05～10:20	4回目 10:40～10:55	5回目 11:05～11:20	6回目 11:30～11:45	7回目 11:45～12:00	12:00～12:10
担当	開会式 訓練説明 訓練準備	中央	東	西	南	北	益城西原	資器材撤収	閉会式
実施隊		東	西	南	北	益城西原	中央		
次回実施隊		西	南	北	益城西原	中央	東		
会場管理/想定付与 関係者		南	北	益城西原	中央	東	西		
傷病者		北	益城西原	中央	東	西	南		
検討会		-	中央	東	西	南	北		
医師(評価者)		医師A	医師B	医師A	医師B	医師A	医師B		
指導救命士(評価者)		指導救命士A	指導救命士B	指導救命士A	指導救命士B	指導救命士A	指導救命士B	指導救命士A	

生涯教育ポイントの改定について

生涯教育ポイントについて

当局は、救急救命士の生涯学習（2年間で128時間）として、ポイント制度を導入し運用している。

令和4年度からは、新型コロナウイルス感染症の流行を機序に、WEB参加による症例検討会へのポイント付与を開始した。さらに、令和6年度からは、抄録作成や事案振り返り研修など項目の新設に加え、症例検討会への対面参加とWEB参加とのポイントに差を付けるなど、自己研鑽の意欲向上や時代の変化に対応したポイント制度を運用している。

現状と課題

- WEB参加は時代のニーズに沿ってはいるが、対面参加の意義も大いにあるため、対面参加を促したい。
- 指導救命士の事後検証会に見合ったポイントの付与。
- 上級救命講習指導者とその他の講習指導者とのポイント差がない。

改定案

※別紙基準ポイント等一覧表参照

- 症例検討会等（ハイブリット開催）WEB参加ポイント：2 P → 1 P
- 指導救命士の事後検証会参加ポイント：4 P → 6 P
- 上級救命講習指導者のポイント：1 P → 2 P

基準ポイント等一覧表(現)

項目	番号	役割 (※公務扱い)	基準 ポイント	備考
症例検討会・学会関係	①	報告責任者 司会	8	※担当署からの人選 (別紙5参照)
		発表	8	
		参加(対面)	4	
		参加(リモート)	2	
	②	座長	16	
		発表・現地参加	8	WEB参加は4P
	③	作成者のみ	8	救急課提出
共同演者		4	救急課要相談	
外部研修・訓練関係	④	指導	16	
		研修参加	8	再教育研修参加 (5・10・15年)
	⑤	指導	10	教育指導(消防学校講師等)
	⑥	参加	3	救急に関する 講演会等聴講
事後検証関係	⑦	指導救命士 副指導救命士	4	事後検証会年間4回実施
		参加(一般聴講)	4	
	⑧	指導救命士 副指導救命士	4	伝達研修年間4回まで
		参加(WEB含む)	2	
内部研修・訓練関係	⑨	主催者 (企画)	8	研修・訓練企画 主催者は1名とします
		発表	6	
		参加	3	
	⑩	参加者全て	1	チームを使った活動 研修など
実践技能教育関係	⑪	指導 協力	8	基準ポイントにあっては 1日実施のポイント数 同研修を2日目も実施で 1日目と同数付与する
		受講	4	
	⑫	筆頭	16	救急課要相談
		共著	8	
救命講習関係	⑬	講習指導主担当 (上級)	6	回数制限なし 自己研鑽のため、各講習 に見学参加した職員にも ポイントを(IP)付与する。
		講習指導主担当 (普通)	3	
		講習指導 (上級・普通・入門)	1	
その他	⑭	参加	1~3	救急課要相談とします 原則1時間IP
病院実習	⑮	参加	【注意1】 8h	実習責任含む

【注意1】2年間で48時間の病院実習は、WS年間4回、1回当たり8時間(8P)として計算しています。原則、3回参加する必要があります。

基準ポイント等一覧表(案)

項目	番号	役割 (※公務扱い)	基準 ポイント	備考
症例検討会・学会関係	①	報告責任者 司会	8	※担当署からの人選 (別紙5参照)
		発表	8	
		参加(対面)	4	WEB参加は1P
		参加(WEB)	2	完全WEB開催の場合
	②	座長	16	
		発表・現地参加	8	WEB参加は2P
	③	作成者のみ	8	救急課提出
共同演者		4	救急課要相談	
外部研修・訓練関係	④	指導	16	
		研修参加	8	再教育研修参加 (5・10・15年)
	⑤	指導	10	教育指導(消防学校講師等)
	⑥	参加	3	救急に関する 講演会等聴講
事後検証関係	⑦	指導救命士 副指導救命士	6	事後検証会年間4回実施
		参加(一般聴講)	4	
	⑧	指導救命士 副指導救命士	4	伝達研修年間4回まで
		参加(WEB含む)	2	
内部研修・訓練関係	⑨	主催者 (企画)	8	研修・訓練企画 主催者は1名とします
		発表	6	
		参加	3	
	⑩	参加者全て	1	チームを使った活動 研修など
実践技能教育関係	⑪	指導 協力	8	基準ポイントにあっては 1日実施のポイント数 同研修を2日目も実施で 1日目と同数付与する
		受講	4	
	⑫	筆頭	16	救急課要相談
		共著	8	
救命講習関係	⑬	講習指導主担当 (上級)	6	回数制限なし 自己研鑽のため、各講習 に見学参加した職員にも ポイントを(IP)付与する。
		講習指導主担当 (普通)	3	
		講習指導 (上級・普通・入門)	2	
その他	⑭	参加	1~3	救急課要相談とします 原則1時間IP
病院実習	⑮	参加	【注意1】 8h	実習責任含む

【注意1】2年間で48時間の病院実習は、WS年間4回、1回当たり8時間(8P)として計算しています。原則、3回参加する必要があります。